

夏の体験入学2018

担当教員 2018年度担当教員
総研大物理科学研究科構造分子科学専攻 教授 石崎 章仁

2018年8月7日（火）から10日（金）までの4日間、分子科学研究所において第15回総合研究大学院大学（総研大）夏の体験入学が開催されました。本体験入学は、他大学の学部学生・大学院生を対象とするもので、各研究室での体験学習を通じて、特に最先端の研究に触れることで、分子研（総研大物理科学研究科構造分子科学専攻・機能分子科学専攻）における研究環境や設備、大学院教育、研究者養成、共同利用研究などの活動を知ってもらい、分子研や総研大に関する理解を広げてもらうことを目的としています。

本年度も定員を超える応募を受け、選考の結果、21名の学生（学部学生18名、大学院修士課程学生3名）を受け入れることになりました。選考は、申し込み学生の総研大への関心の高さを優先して行いました。体験入学初日の午後から、明大寺地区でオリエンテーションを開催し、総研大・分子研の紹介および各実施グループによる体験プログラムの紹介を行いました。その後はUVSORと計算科学研究センターにおいて施設見学です。夕方からは、岡崎コンファレンスセンターにおいて歓迎会を開催し、参加学生全員に自己紹介を兼ねて体験入学の抱負を語ってもらいました。所内からも非常に多くの

ご参加をいただき、お陰様で100名ほどの大盛況となりました。8日および9日の2日間は各グループにおける体験プログラムの実施に割り当てられ、最終日10日午前には2日間の体験プログラムの成果を個別に発表いただきました。多くの質疑応答があり、本年度も充実した体験プログラムであったことが窺われました。

終了後に実施したアンケート結果では、実験系・理論系ともに研究体験が有意義であったとの回答が多数を占めました。特に総研大・分子研について「研究をするには最高の場所」「研究設備がとにかく充実している」「密な指導を受けられそう」「経済支援、研究レベル共に文句なし」など魅力を感じるという回答が多くみられました。一方で、体験入学の日程については「実施期間を長くして欲しい」「実験をもう少し沢山し



E V E N T R E P O R T

たかった」という意見が幾つか見られましたが、同様の意見が過去の体験入学学生からも寄せられていたことを考えると、ちょうど15回の開催を終えた今、体験入学のプログラムを少し再考する機会を持っても良

いのかなという印象を抱いたのが正直なところでは。

今年度も様々な方々のお手伝いのお陰をもちまして、滞りなく全プログラムを終えることができました。最後になりましたが、本事業にご協

力いただきました全ての先生方、関係者の皆様方にこの場を借りまして厚くお礼申し上げます。

総研大アジア冬の学校2018

担当教員 2018年度担当教員
総研大物理科学研究科機能分子科学専攻 教授 西村 勝之

総研大「アジア冬の学校」が、平成30年12月19日（水）分子科学研究所明大寺地区において開催されました。総研大アジア冬の学校は、物理科学研究科内の5専攻で行っている研究・教育活動をアジア諸国の大学院生及び若手研究者の育成に広く供するために平成16年度に始まりました。分子研国際インターシッププログラムで受け入れているインターシップ生を中心に、海外からの参加者2名、所内から参加者8名、合計16名の参加がありました。

「分子科学、新分野への挑戦」をテーマに、江原正博教授、飯野亮太教授、榎山儀恵准教授をお招きして、様々な観点から分かり易く分子科学の基礎から最先端までの研究が紹介されました。さらに、インターシップ生のフラッシュトークによる自己紹介、総研

大生9名を加えたポスター発表が行われ、各々の研究に関して活発な議論が行われました。また、普段交流の機会の少ない、所内教員、および学生とインターシップ生の間で十分な交流がなされ、大変盛況でした。

講義とポスター発表を通して、分子科学の基礎から最先端の研究成果

まで学ぶ十分な機会が得られたと思います。講師の先生方には深く感謝申し上げます。また、本学校を開催するにあたり、分子科学研究所の担当職員の方々、秘書、学生をはじめ、多くの方々にご協力を頂きました。この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

